

喜多俊之氏イタリア貿易振興会より、 ライフインIスタイル賞牌を授賞

今回、「日本におけるイタリア2001年」イベントの一つで、イタリア貿易振興会75周年を記念して、「メイド・イン・イタリア」製品の日本への振興に貢献した日本人ということで、ファッション、インテリア・デザイン、映画の3つの部門からそれぞれ2名が選ばれました。



その中でインテリア・デザイン部門からは喜多俊之氏と保科正氏が選ばれ、5月22日に東京・国際フォーラムにおいて、授賞式が行われました。「ライフインIスタイル」賞はイタリア文化の日本における功績に与えられるものです。今回の喜多俊之氏の受賞は、30年にわたって、イタリア企業へのデザイン、日本への文化、製品の普及活動への貢献が評価されたことによるものです。

主催／イタリア貿易振興会

本部事務局

イタリア政府機関、ICE（イタリア貿易振興会）よりインテリア、ファッション、映画部門より6名の受賞者が選ばれました。表彰式は5月22日東京国際フォーラムで行われ、日伊両国より700人余りが出席しての盛大なものとなりました。各受賞者には推薦者自ら舞台上で推薦のメッセージを伝える形式で、はるばるイタリアより来日。会場はイタリアムード一杯に漂っていました。その日に合わせて、室内楽のプロやイタリア料理のシェフがミラノより来日して、会場は大変盛り上がりしました。今年は“日本におけるイタリア年”ということで、多くのイベントが催される予定で、このイベントもその一環として行われました。

喜多 俊之

一教育研究委員会 Aグループの取り組みー 「総合的な学習の時間を利用してインテリア教育を！」 教育研究委員会Aグループ委員長 加藤 力

来春より始まる小・中学校における「総合的な学習の時間」を利用・活用してJID本部教育研究委員会Aグループでは、児童・学童・生徒にインテリア教育を実施したく势力的に計画、準備を進めていることは、すでにお知らせのとおりです。

現在、小学校中学年、小学校高学年、さらに中学校におけるインテリア教育のカリキュラム作成とそのテキストについて、一部外部の協力も得て、検討・作成を進めております。ところで、この委員会は関西を中心に進めておりますので、会員の皆様には十分にその主旨や目的

JID NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

2001

No.215

6・7

「目 次」

● 喜多俊之氏ライフインIスタイル賞授賞	1
● 教育研究Aグループの取り組み	1
● Humanizing Design 21を終えて	2
● かたちの向こうにあるもの	2
● Humanizing Design 21に参加して	3
● 国際交流委員会報告	3
● 第33回通常総会報告	4
● 平成12年度第5回理事会報告	5
● 平成12年度第6回理事会報告	7
● 平成13年度第1回理事会報告	10
● JID NEWS 関東	12
● JID NEWS 中部	13
● JID NEWS 関西	16
● JID NEWS 九州	16
● 新入会員の紹介	18

が伝わり難いところがあるかと思うので、ここでは、そのことについて取り上げたいと思います。

①JIDが実施するインテリア教育の目的

インテリアという児童・学童・生徒にとって身近な生活空間を対象に、その環境に興味を持ち、自らの課題を見出し、その改善策等を考えて、快適に、機能的に、かつ美しく、个性的に住まうための工夫や改善を行なうための能力や技術また感性や思考力を身につけるためにインテリア体験教育を行う。こうしたことを通じてインテリアデザインへの理解を深めて、ひいては地域、地球環境にまでも広く思いを馳せることのできる子供達が育まれることを期待する。

②方法と期待される効果

インテリア教育の具体的な方法は生活空間・環境をデ

ザインするプロ達（JID会員を中心）が、その知識や技術、感性によって、児童・学童・生徒に自分達の住まう身近な生活空間の大切さを気づかせて、自分らしく、安心して、楽しく、快適に暮せる知恵や創造性を、「インテリアデザインという方法を体験」させることによって、学ばせます。その効果には次のようなものが挙げられます。

イ：子供達の造形に関する創造力、感性の向上、育成に役立ちます。

ロ：生活環境の大切さに気づき、環境改善、整備、環境美化に貢献します。

ハ：身近な生活空間から地域環境、地球環境にまで、思いを馳せる力を身につけます。

ニ：住まいやものを大切に作る心を養い、愛着心や長持ちさせる心を養います。

ホ：自分自身の感性や生活に相応しい個性的で豊かな空間を創造、計画する力をつけます。

ヘ：正しい生活関連商品の選択、情報判断の能力を養います。

ト：暮らしや住まい方を考えることを通じて、いきいきと生きることを学びます。

チ：他人との感性、価値観の違いを知り、他者を尊重、理解する力をつけます

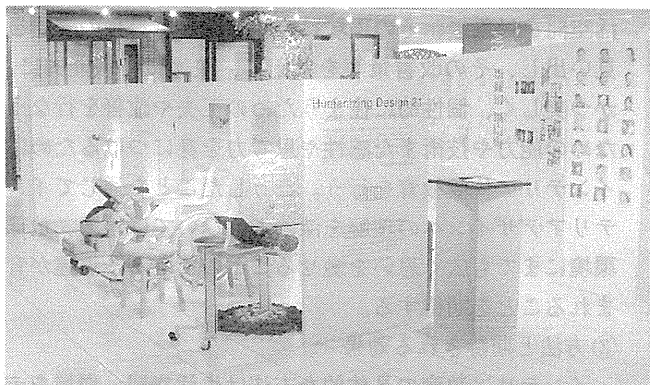
秋には、大阪でシンポジウム等も予定しております。また、具体的な学校の現場で実験的なインテリア教育の実施も計画しております。これに関して会員の皆様の情報をおよせいただくことを期待しております。

FAX 075-724-7605（加藤）

Humanizing Design 21 を終えて

本部教育研究委員会C 委員長 菅原 孝則

Humanizing Design 21 ～JID会員によるユニバーサルデザイン展～を、新宿OZONEにて2月に開催し、引き続き3月には、富山総合デザインセンターにて、追加作品もあり、規模を拡大して開催することができました。



7つの原則によるロナルド・メイス氏の提唱するユニバーサルデザインを、日本にあう形で読み直すことを目的として、参加されたJID会員のプロジェクトを紹介展示いたしました。

普通の椅子から、バリアフリーデザイン、空間デザイン、あるいは、高齢化社会や日本の暮らしを意識したもの、そして情報化社会に対してのアイロニーまであり、この展示会を内外にアピールできたと確信しています。

ユニバーサルデザインという語は、日本の中では、ビジネストレンドの一つとして安易に、曖昧に括りつつあると言えます。より人間的にという大きな括りの中で、理論ではなく実例で紹介展示できたことは、このユニバーサルデザインを見直したりするきっかけに成りえたと思います。

参加いただきました皆様、ご協力していただきました皆様、本当にありがとうございました。

また、岡山県の川崎医療福祉大学から引き続き展示会のお声を掛けていただいています。次なる内容を考えつつ、前向きに検討中です。

会員皆様のご協力と私共委員会活動への参加を、ぜひ、ぜひ、お願いする次第です。

Humanizing Design 21 かたちの向こうにあるもの。 本部教育研究委員会C 竹沢 吾郎

デザインとは本来、世の中一般のすべての人を等しく対象とすべきものだが、実際には多数派を占める若く健康な人々が優先されている。ユニバーサルデザインが目向けるのは、そのような不均衡や不平等であり、言うならば当たり前のことを改めて提唱しているにすぎない。

ここで言う省みられるべき少数派の為のデザインは、主として老人や障害者の介護を対象にしたものだが、この二つは似ている様で、勿論まったくの別物である。加えて男女のジェンダーによる違い、文化的な背景の違い等がこれに複雑に絡み合うことになる。しかしこれらの課題をひとつずつ丁寧に解決していくことが一番重要なことではない。複雑で困難な命題を限られた時間と予算



中で何とかしなくてはならないのはデザイナーの宿命であり、先に述べたように対象が少数派であろうと多数派であろうとデザインという行為そのものに不均衡があるわけではない。では何が重要なのか。障害者や老人が望む機能をかたちにするまでは当たり前のこととして、問題はその後、デザインされた家具や空間が、いかにそれ以上の何かを彼らにもたらすかと言うところにある。

家具のかたちは身体や身振り、住空間に付帯する機能の投影である。同様に障害者や老人の家具もまた彼らの身体を通して立ち現れる。しかし私たちが家具や空間に求める狂おしいまでの情熱や欲望は、身体性や機能をその出発点としながらも、それを軽く飛び越えてしまうのかのようだ。そしてそれが私たちの生を豊かで誇るべきものになっているのではないか。それでは介護の為の家具や空間は、飛び越えた先に何処に向かってゆくのか。

ある老人から聞いた言葉はひとつの答である。彼の両足は全く動かないのだが、体に完全にフィットした「補助器具」ではなく、好みに合った車付きの「椅子」を作ってくれと言う。座面の寸法や動かし易さといった機能より人生を共にする家具としてのフォルムを優先すると言う。機能の足りないところやサイズの不具合は自分の体を合わせるからあまり気にしないでも良いとまで言う。

障害者や老人にとって失われた身体の機能を補助し復元する道具は、大切なものであると同時に現実を直視せざるをえない忌まわしいものであるかもしれない。しかしもし道具が単に機能するだけのものにとどまらず、彼らを取り戻そうとしている人間としての誇り、生きてゆくプライドをもたらせてくれるもの、真の意味でのケアをもたらしものであれば、そこが先に述べた着地点ではないだろうか。具体的なデザイン操作の如何ではなく、家具やインテリアが、どこまで人間の生を共に昇めてゆけるかが問われているのではないだろうか。

Humanizing Design 21に参加して

新妻 勝之

ヒューマニジングデザインの解釈の仕方の違いだろうが。首を傾げなくなる出展品もあったが、人間の本性を問うテーマはこれからも続けられるべきだろうと思った。テーマが初めてのこともあって、担当委員の方々に相当御負担を御掛けしたようだ。ご苦労様でした。

さて、オゾンと富山、両方の展示を見て回った。富山の感想を述べさせていただきます。富山は高岡市のデザインセンターで展示されていました。デザインセンターの方々の熱心なご協力と展示会場の広さ、同時開催の展示物とで見ごたえのあるものになってました。以前、富山でインテリアスクールの講師をしていた関係で久しぶりに知人達に会うことが出来たこと、高岡デザインセン

ターの並々ならぬ地場産業振興への情熱と、最先端設備の充実ぶりに、一瞬「富山人になりたい」と思っていました。JIDと地場産業との出会いは新たなデザインの発掘にもなるチャンスだと感じました。

国際交流委員会

委員長 藤村 盛造

① IFI南アフリカへ行こう！参加者募集

まだ間に合います、もし貴方の決断が早ければ—
JID meet the world in South Africa!

南アフリカは何かのきっかけがないとなかなか行けないところです。知らない団体に加わっていくよりも共通の話題と感性をもった仲間で旅することの楽しさを味わっていただけます。

思いがけない人との出会いもIFIがきっかけで生まれるかも知れません。

現在すでに10名近いひとのお申し込みがあります。ご夫婦での参加も大いに奨励いたします。詳しいことをお知りになりたい方は事務局か国際委員会の私までFAXでご連絡ください。

FAX：03-3360-6575

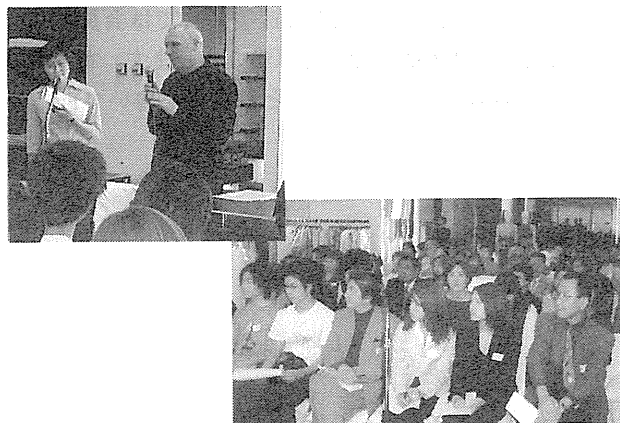
② 第2回 JID meet the world

5月11日18：30より丸の内3丁目富士ビルの1階に新しく出来たエンポリオアルマーニ店200坪を会場に開催しました。

ゲストスピーカにはGIORGIO ARMANI JAPAN 及び ASIA PACIFIC 社長Mr. Meier氏をお迎えし、司会：

川上玲子氏 進行：小野由紀子氏によって「ARMANIのデザイン戦略と店舗について」の話を聴く事ができました。尚 店舗の案内役は設計にあたったJID会員入山明良と藤村盛造、ほか1名で対応しました。

出席参加者は約80名ほどで、内訳は会員36名 賛助会員・その他一般16名 学生14名 JIPAT会員6名でした。金曜日という事もあって中華料理の2次会へは約36名の出席で閉店11時まで盛り上がりました。





南アフリカ航空
パンフレットより抜粋



③ 国際交流合同委員会開く 6月8日(金曜日)

出席者：川上玲子・喜多俊之・木村戦太郎・土橋隆子・村元俊子・小野由紀子・斎藤武行・梶田尚令・藤村盛造

欠席連絡者：池田慎司・北村新比古・藤本文明・村口峯子・須藤玲子・安河内敦子

1. IFIの説明会について

現在約10名の参加見込みがあり更に参加呼びかけの説明会を開く必要があるかどうかを議論した。とりあえず会員の集まる機会をとらえてプロモーションをかけることで一致、文字情報だけでは臨場感が足りないの南アフリカ観光局より手に入るパンフレットを入手し関心のある方に届くようにする。

2. 第3回JID meet the worldの開催企画 7月

喜多俊之氏の提案により青山で今年度の開かれたミラノSALONEのスライドやビデオによる紹介を行う。同時に「今年度のミラノ展示会の傾向とデザインの選択について」今年度JIDの代表で招待を受けた阪井良種氏(交渉中)と喜多俊之氏のトークを聴く会とする。日程は未定。

3. IPEC 21に参加 11月国際家具見本市共催

IPECセミナーとしてJID meet the Worldを開く。JIPAT(東京インテリアプランナー協会)国際委員会と共催で開く企画も考慮する。

国際交流委員会委員募集

今回IFIのことを含め国際交流委員会では会員より広く委員会への積極的な参加を募集いたします。希望者は国際委員会宛で事務局へ氏名と連絡先を書いてFAX下さい。

「第33回通常総会」報告

日時 平成13年5月25日(金) 午後3時30分～5時

場所 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F
OZONEセミナールーム

議事経過

定刻3時30分、峰尾 武事務局長の開会の辞で開会した。直ちに「本日の正会員数513名、本日の出席者数37名、定款第25条による委任状提出者数263名、合計300名である。定款第23条による定足数は257名、よって本会は成立した」旨、成立宣言がなされた。議事に先立ち、峰尾事務局長より定款第22条により、本総会の議長は、理事長がこれにあたる旨説明した。

続いて木村戦太郎理事長が挨拶に立ち、「平成12年度事業は、改選された新役員による新しい世紀の始まりを展望し、活動のフレキシビリティを重視した組織で本部事業が事業計画に沿って実行された。又支部活動については、各々の事業支部が独自の活動を企画展開し始めており、一方JID予備軍としてのデザイン学生や、若年層への働きかけも着実に成果を上げつつある。

他方外部関係に関しては、関連団体との様々な連携や、経済産業省製造産業局デザイン政策チームの呼び掛けによるデザイン8団体の『デザイン委員会』が始まった。新体制の下各位のご努力にも関わらず、事業が計画通り進まなかったものも幾つかあり、今後の活動推進に期待し、平成12年度事業報告(案)・収支決算報告(案)について審議いただきたい」旨述べた。

理事長挨拶の後、議事に入った。

第1号議案

平成12年度事業報告(案)及び収支決算報告(案)、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録を配布された議案書に基づき、事務局長より、それぞれの内容について報告が行われた。引き続き川上、中川両監事を代表して中川監事より、去る4月24日東京において会計監査を行った結果が報告された。

以上につき質疑応答の後、議長は総会に諮り、拍手をもってこれを承認した。

第2号議案

平成13年度事業計画(案)・収支予算(案)について議長より総括説明があり、「平成13年度は、昨年度スタートした新体制の真価が問われる年となる。事業計画の基本理念は新世紀に求められる新たな枠組みの模索であり、昨年の企画を継続するものである。又他団体とのコラボレーションはJIDの実力が問われ試されることでもあり、独自の成果を発信する努力を忘れてはならない。最後に財務体質の強化と組織基盤強化、協会活性化のために会員拡大は必須であり、会員各位のご協力をお願いしたい」と挨拶。その後それぞれにつき事務局長より説明が行われた。

以上につき質疑応答の後、議長は総会に諮り、拍手をもってこれを承認した。

第3号議案

議事録署名人選任に関する件に対し、議長から腹案として、伊藤公一、長堀映司会員(いずれも関東事業支部所属)が提示された。

以上につき、議長は総会に諮り、全員異議なくこれを承認した。

報告事項

会員規定一部改訂報告・役員選挙規定一部改訂報告について事務局長より報告が行われた。質疑応答の後、議長は総会に諮り、全員異議なくこれを了承した。

閉会

議長が挨拶に立ち、本日の議事案件の審議に対する協力に感謝する旨の謝辞が述べられ、定刻の午後5時、第33回通常総会は滞りなく終了した。

【平成12年度第5回理事会報告】

①会議名：平成12年度第5回理事会

②日時：平成13年1月25日(木) 13:30~16:30

③場所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

④出席：(理事長) 木村戦太郎

(副理事長) 阪井良種、山崎 晶

(理事) 秋山修治、泉 修二、川上玲子、

吉良ヒロノブ、佐々木恵子、

須長壮太郎、関 里繪子、

中川昴子、長岡貞夫、

山永耕平、山本棟子

(委任出席) 喜多俊之

(監事) 川上信二、中川千年

⑤議事

峰尾事務局長代理より「理事総数15名中、本人出席14名、委任状出席1名で本理事会は成立した。」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

Ⅰ 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(長岡)

11月21日第7回関東事業支部委員長会議開催、12月7日(木)組織・JID関東ユースによるセミナー「光と色」の実施、又情報及び組織・本部委員会合同委員会を開催、12月12日情報委員会による第3回「パソコンセミナー」等を実施したと報告。その後関東ユースの「ロゴ」デザインの再提案があり確認された。

◆中部事業支部(関)

11月18日(土)11月度連絡会及び「モノ作りの探索」=酢の里と瓦の美術館の研修、12月8日(金)国際デザインセンター登内社長とCCDO役員との討論に安藤支部長が参加、12月16日(土)中部インテリアユーズの検討等を実施と報告。

◆関西事業支部(佐々木、山崎)

「日本の空間デザイン2000」主催大阪市/(財)大阪デザインセンターに共催(11月23日~28日)。11月24日本部教育委員会Aに協力「初等、中等教育の現状について」飛鳥先生にお話を伺う(山崎、加藤(力)、鈴木(儀)、夏原、八十)又12月25日(月)同委員会に協力テーマについて情報交換。その他11月28日「第10回国際デザイン展」、12月2日~5日「イイモノ、コト21世紀に伝えたい」、12月5日「第15回トータルインテリアキャンペーン」等の説明会に出席。12月9日セミナー委員会「エコスクール見学会」を武庫川女子大学付属中高セミナー棟で行う。第3回ECO誌委員会、第4回支部運営委員会、総務委員会を実施と報告。

◆九州事業支部(山永)

12年度の大きな事業である「インテリアデザイナー

展JID九州2000」を無事終了、若いデザイナーや学生とのコミュニケーションを持つことが出来、大きな収穫であった。12月7日(木)福岡デザイン界、20世紀最後のデザイン大交流シンポジウムを第1部「20世紀のデザインを総括する」第2部「私が選んだ20世紀のデザイン、ベスト5」を実施。12月15日(金)第1回デザインリーグ将来構想検討委員会を実施、「FUKUOKAデザインリーグ放談会」を1月に開催すると報告。

◆総務・組織委員会(秋山)

本部総務・組織合同委員会を開催1月のスケジュール等を打合せ、その他、前定款改訂委員会が作成した会員規定(案)及び役員選挙規定(案)等の新定款との整合性について検討、本部総務・組織委員会としての改訂案を作成、理事会に提案する。又その他の諸規定に関しても各支部、JID事務局等との実情に合わせて検討を行う予定。尚名簿には定款のみを掲載することになったと報告。

◆国際委員会(川上)

JIDの海外紹介としてイタリアのデザイン誌OTTAGONO、140号(10,11月号2000年)に最近の日本のインテリアデザインについての記事掲載をJID賞選考委員の清水忠男氏が代表して寄稿、紹介記事は写真と共にJIDの活動の一環としてJID賞が印象づけられている。又JIDが日本を代表するインテリアデザイナーによって構成されている団体であり、そこで選考されたJID賞は極めてレベルの高いものであること等が説明されていると報告。

◆交流委員会(川上)

サロンミーティング及びAPSDA等が終了し、今後来期に向かってデザイン供養、サロンミーティング等の計画を予定と報告。

◆情報委員会—インターネット(吉良)

12月12日初めてのパソコンセミナー/シュミレーション開催、今後資料を出し支部事業として願います。又JIDインターネット会員の増強を図ると報告。

◆情報委員会—出版(吉良)

インテリアデザイン誌について進行中であるが、尚全体のコンセプトについて再度の確認と調整を図ると報告。

◆情報委員会—JIDニュース(吉良)

2001年2・3月号、(214号)を3月初旬に発行の予定で、今後校正等について検討と報告。

◆教育・研究委員会—A(山崎)

引き続き子供向け造形教育に関する国内外の教科書の収集及び分析と、子供の造形と空間認知に関する資料等の収集。文部科学省の初等・中等教育に於ける総合的な学習に関する現状調査を行う。(社)インテリアファブリックス協会が目黒の中学校を対象にしたインテリア教育に取り組む(床、壁、天井等)、これに対

し加藤委員長がヒヤリングを実施、本事業に関する資料を収集、今後の活動に生かすと報告。

◆教育・研究委員会—B(須長)

11月20日(月)に実施した「スウェーデンのデザイン教育と今日のデザイン」講演会についての結果の検討を行う。又委員会の教育・研究内容を情報媒体を通して発信する(一般、若者対象)。テーマ内容:日常生活周辺に於けるインテリア現象・言葉等をシーンとして抽出し提起する。研究成果の発表はJIDホームページを利用すると報告。

◆教育・研究委員会—C(山本)

リビングデザインセンターOZONEにて2001年1月18日から開催される「ユニバーサルデザイン展2001」に「Humanizing Design21〜JID会員によるユニバーサルデザイン展」で参加、又フォーラム「プロへのヒント 私の求めるユニバーサルデザイン」2月1日をJID登録・ユニバーサル研究会が中心となり本部教育・研究委員会が内容を確認し実施の予定、現在100人を越す申し込みがあると報告。

◆デザイン保護委員会(泉)

日本デザイン団体協議会による「デザインの著作権についての意識調査」を準備中、その他今年度JID会員に対しインテリア、プロダクトを合わせて著作権等の意識調査及びデザイン保護に関する情報提供を実施したいと考えていると報告。

◆事業委員会(阪井)

東京国際家具見本市11月21日〜24日東京ビックサイトにて「IFFT 2000特別展示」を事業委員会ワークショップのメンバーの努力で成功裏に終了した。限られた予算の中で様々な企業の協力があつた。全体の構成は何もない演劇空間、小学生を始めとする協力をいただいた作品展示の空間、そして新しい感覚で家具を配置された四つの空間という構成が評価されたと報告。

◆会員プロモーション委員会(中川)

ワーク集+名簿の申し込み状況を見て不足分に対する対策検討、FAX等による呼び掛けを考える。又来年度OZONE展覧会企画の検討と報告。

◆選考委員会(泉)

「2000年JID賞」の贈賞式(参加者80名)・JID賞展(1月5日より1月16日/OZONE 6Fギャラリー、入場者1620名)。又次回「2001年JID賞」の準備について報告。

(2) 平成12年度収支状況報告(12月末日現在)

平成12年度収支(12月末日現在)報告について事務局代理より報告。

(3) 通産省平成12年度業務監査報告

通産省平成12年度業務監査報告について、秋山総務担当理事及び川上監事より業務監査に関して報告された。その後通産省よりの指摘事項(資料)に対し改善の要望があつた旨、報告された。そのなかで現在の峰尾事

務局長代理を「公益法人の設立許可及び指導監督基準」及び定款第41条に基づき「事務局長」とすることを確認し、辞令を早急に出すこととした。また指摘事項に関しては今後逐次改善することを確認した。

(4) 第33回通常総会までのスケジュール

第33回通常総会までのスケジュールについて事務局長代理より説明があり、第33回通常総会を平成13年5月25日(金)に行う予定と報告。

(5) 経済産業省新組織について

経済産業省の新組織、人事について事務局長代理より説明が行われた。

(6) デザイン団体協議会会議報告(経済産業省アクション・プログラム)

日本デザイン団体協議会会議、及び経済産業省アクションプログラムについて、木村理事長並びに秋山理事より経過説明と今後の方向について説明があり、引き続き日本デザイン団体協議会で審議を重ね、経済産業省のプログラムに対応すると報告。

(7) その他

・計報 山下よその(九州事業支部 正会員)

平成12年12月9日没 享年54歳

・次回理事会開催予定(2000年度6回)

平成13年3月23日(金)

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれをして承した。

II 議案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長代理が下記3件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎シンポジウム『SECTION26』・『SECTION27』

2001年2月19日(月)～2月21日(水)

主催 (社)日本商環境設計家協会

◎「2001建設資材データベース」の発刊に関して

2001年1月15日(月)

主催 (財)経済調査会

◎工芸財団オープンセミナー「暮らしの空間を考える」

2001年3月14日(水)

主催 (財)工芸財団

第2号議案 会員入退会承認の件(23件)

正会員・入会(2件)

鈴木 ふじゑ(関東) 推薦人: 木村 戦太郎

小野 由記子

酒井 忍(関東) 推薦人: 山岸 征史・道明 三千代

賛助会員・入会(1件)

富士ゼロックスオフィスサプライ(株) ワークステージ 営業部

担当者: マネージャー 中根浩二 紹介者: 峰尾 武

正会員・退会(18件)

高岡 貞子(関東) 佐々木 久江(関東) 川島 道代

(関東) 中里 信正(中部) 植田 益夫(関西) 上野

晴彦(九州)

正会員・退会(定款8条2項(4)により)

井上 保彦・漆崎 幸代・加瀬 正興・栗原 哲男

志波 茂・杉本 眞二郎・牧野 滋・宮下 順子

望月 靖子・吉井 祐子(関東) 矢田 秀治(関西)

中島 明美(九州)

賛助会員・退会(2件)

(株)松坂屋 東京事業部・スタッツナインハット(株)(関東)

第3号議案 議事録署名人選任の件

議長は、須長壮太郎、長岡貞夫両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

〔平成12年度第6回理事会報告〕

①会議名: 平成12年度第6回理事会

②日時: 平成13年3月23日(金) 13:30～16:30

③場所: JID 本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

④出席: (理事長) 木村戦太郎

(副理事長) 阪井良種、山崎 晶

(理事) 秋山修治、泉 修二、川上玲子、

佐々木恵子、須長壮太郎、

関 里繪子、長岡貞夫、

山永耕平、山本棟子

(委任出席) 喜多俊之、吉良ヒロノブ、

中川帛子

(監事) 川上信二、中川千年

⑤議事

峰尾事務局長代理より「理事総数15名中、本人出席12名、委任状出席3名で本理事会は成立した。」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

I 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(長岡)

事業推進委員会を開催、次年度計画、四方山話その他を討議(2月8日)。情報委員会合同委員会を開催(2月19日)。組織、JID関東ユース委員会定例連絡会を開催、次年度計画その他を討議(2月27日)、などを報告。

◆中部事業支部(関)

1月度連絡会を行い「マッキントッシュとガラスゴーストスタイル展」見学と大阪大学藤田治彦先生の講演会を聴講(1月20日)。1月～3月各校の卒業制作訪問(JID中部学生賞対応)。その他各種交流会に参加と報告。

◆関西事業支部(佐々木、山崎)

第4回研究委員会「トランスポートーションを考える」と「インテリアの環境問題を考える」を開催(1月19日)、第3回総務部会で会員規定・役員選挙規定の改訂案検討及び平成13年度活動計画と予算案の検討(1月19日)。第1、2回「インテリアの環境問題を考え

る」5団体合同会議に研究委員会が参加（1月29日、2月22日）。第3回情報部会を開催、エコ誌16号編集、関西通信の編集の検討、配信手法の調査、又経費の節減を検討（2月2日）。第5回支部運営部会開催、理事会・各部会・委員会活動等報告（2月9日）。セミナー委員会が「船舶のインテリアデザイン」講師館野会員を開催（2月23日）などを報告。

◆九州事業支部（山永）

第1、2、3、4回FUKUOKAデザインリーグ将来検討委員会に参加、又FUKUOKAデザインリーグ放談会を開催（1月22日）。福岡デザイン界「20世紀最後のデザイン大交流シンポジウム」に山永、飯田、上野氏参加、今後もFUKUOKAデザインリーグは福岡の19デザイン団体個人を対象とした大きなイベントでもあり、積極的に参加。その他第4回例会(大分地区)、第5回例会（北九州地区）の開催などを報告。

◆総務・組織委員会（秋山）

第3、4回本部総務・組織委員会を開催、現行の会員規定、役員選挙規定を基に意見交換を行い、第6回理事会で審議する素案の作成、又JIDパンフレット改訂版の検討した。その他平成13年度総務・組織委員会の予算作成などを報告。

◆国際委員会（川上玲子）

IFI国際会議の呼び掛け資料が届き、一部を翻訳理事会に報告、開催地のアフリカ（ヨハネスブルグ）までの旅行ルートにつき香港ルート及びヨーロッパ経由ルート等を検討し、出来るだけ早く会員にインフォメーションしたい。その他九州、関西、中部の交流委員会とコンタクトを取り、交流を図る準備を進行中で、IFI参加の呼び掛けを進めると報告。

◆交流委員会（川上玲子）

IFIアフリカツアーについて国際委員会と共催の実施。又セミナーについても検討すると報告。

◆情報委員会—インターネット（吉良理事委任出席のため文書にて）

今後の委員会活動について会議だけでなくワークを伴う行動を主とし、議事はメールで事務局に集める。ホームページについては充実と認知度を高める。インターネットについてはアドレスの募集を機会あるごとに実施し、ホームページは年1回の更新は業者に、トピックスはJID内部にて更新を行う。その他パソコンセミナーの開催と会員アドレス入力、及び6月にアンケートを実施と報告。

◆情報委員会—出版（吉良理事委任出席のため文書にて）

FROM-JIDの編集について前回理事会にて提案されたコンセプトの再検討を関係者にて検討、JIDとして環境問題を取り上げコンセプト作成し今理事会に提案され、大筋は了承、高度で解りやすく学会誌でなくデザイナーのためのハンドブック的なものとする等意見があった。尚この件につき木村理事長より経過説明があ

り、編集、出版は来期中に行うとした。

◆情報委員会—JIDニュース（吉良理事委任出席のため文書にて）

JIDニュース2001、2・3月号（214号）を発行。今後関係者にて編集内容、年間スケジュール等について関西事業支部部内で検討の後本部吉良理事と調整すると報告。

◆教育・研究委員会—A（山崎）

引き続き子供向け造形教育に関する資料の収集。文部科学省・初等中等教育における総合的学習について、委員会としてインテリア教育を来年度以降どのように取り組むかを検討。テキストの内容は絵本として、形が見えてきたら予算等を考える。その他3月24日（土）朝日新聞社主催、教育フォーラム「総合的な学習に関する取り組み」に山崎、加藤の両氏が出席と報告。

◆教育・研究委員会—B（須長）

研究活動テーマについて、一般情報媒体として新聞を主素材とし研究対象に取り上げる。研究内容成果については情報媒体を通して発信する。その一つとしてJIDホームページに掲載する。その他2月7日（水）山形県鶴岡市立第一中学校の修学旅行を兼ねた訪問学習を受け入れ、本委員会によってインテリア家具に関わる質問に回答しながら学習指導を行ったと報告。

◆教育・研究委員会—C（山本）

リビングデザインセンターOZONEにて「Humanizing Design21～JID会員によるユニバーサルデザイン展」2月1日～20日を実施、又フォーラム「プロへのヒント 私の求めるユニバーサルデザイン」を開催、予定をオーバーする参加者があった。引き続き富山県総合デザインセンター主催の「私たちのユニバーサルデザイン展」に出展、盛況の内に終了した。その後同展に関し岡山県川崎医療福祉大学より出展要請の打診があり、今後調整する。その他登録研究委員会に関し検討の必要があると報告。

◆デザイン保護委員会（泉）

日本デザイン協議会による「デザインの著作権についての意識調査」の準備が日本ジュウリーデザイナー協会を中心に進行中。又JID会員に対してインテリア、プロダクトを合わせて著作権等の意識調査及びデザイン保護に関する情報提供を実施するため、現在アンケート試案を作成中と報告。

◆事業委員会（阪井）

2月27日（水）第8回事業委員会を開催、1. イベント企画内容の具体化とコンセプト確認。2. イベント企画（賛助会員企業とユースの会）賛助会員参加者の考案。第9回事業委員会を開催、上記1. のイベント企画の決定を見送る。又上記2. の短期内容を決定と報告。

◆会員プロモーション委員会（中川理事委任出席のため文書にて）

2月3日(土)ワーク集の応募状況と今後のスケジュールについて打合せ、応募頁、120頁は最低確保のため、各委員が個別に連絡する。オゾン企画展については、次回までに企画書の叩き台を作る。3月3日(土)ワーク集の頁が130頁を超え目標を達成。作品原稿の未提出者への対応が必要。出版社は「風土社」にほぼ内定。オゾン展については企画書を作成、企画協力先への協力、協賛を早い時期に行い次年度の活動の柱とする。

◆選考委員会(泉)

3月16日(金)今年度最終の委員会を開催、応募料の値上げについて3000円でもよいのではないかと。外部審査員について1人は前年までの受賞者より、1人はデザイナー以外の視点を持つ別分野の人等引き続き検討。JID賞展についてOZONEデザインギャラリーは別の企画が期待されるため、OZONEの他の場所か又は全く別の場所での検討を行うと報告

◆理事長年間活動報告(木村)

木村理事長より平成12年度の理事長として、70回にも及ぶ主として対外活動の報告が行われた。その主なものは、1. 経済産業省の呼び掛けによるデザイン8団体とのデザイン委員会の開催、並びにそれに伴うデザイン団体協議会の開催で経済産業省のアクションプログラムに対する対応。2. インテリア4団体「インテリア学会、(社)インテリア産業協会、(社)日本インテリアデザイナー協会、東京インテリアプランナー協会」による「インテリア工事標準仕様書」検討委員会の開催。3. (社)インテリア産業協会に対する協力として委員の派遣等。その他日経オフィス賞、都市基盤整備公団コンペ、全国地場産業大賞等の審査協力。又NIFの活動「インテリアの体験学習」への協力、日本インテリアプランナー協会協議会(IPEC21)への協力等が報告された。

(2) 平成12年度事業報告(案)及び収支決算見込

各委員会から提出された報告のまとめを事務局長より説明、報告文の短縮をお願い。決算についてはこれから行うと報告。

(3) 平成12年度収支状況報告(2月末日現在)

平成12年度収支状況報告(2月末日現在)について事務局長より報告。

(4) 平成12年度会費未納状況について

平成13年3月19日現在54件の未納があると事務局長より報告。

(5) その他

・会員拡大について(秋山)

会員拡大についてキャンペーンを行うと報告。

・IPEC21の件(木村)

IPEC21(日本インテリアプランナー協会協議会)主催に対する特別協賛について今後の協力のあり方等について説明。

・イタリア貿易振興会ミラノサローネの件(木村)

イタリア貿易振興会ミラノサローネに対し理事長招待があり、阪井副理事長が代理参加すると報告。

・次回理事会開催予定(2001年度1回)

平成13年5月25日(金)13:30~15:00

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案 平成13年度事業計画及び予算(案)承認の件

平成13年度事業計画(案)及び予算(案)につき議長より説明があり、質疑応答の後、議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

第2号議案 会員規定及び役員選挙規定改訂(案)承認の件

総務・組織委員会で前もって配布された会員規定及び役員選挙規定改訂(案)について秋山理事より説明を行った。審議の結果、会員規定改訂(案)、役員選挙規定改訂(案)とも内容に関しては了承され、字句等の調整を委員会に一任することにした。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

第3号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長代理が下記5件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「東京国際額縁と絵画フェスティバル2001」

2001年9月7日(金)、8日(土)

主催 2001 TAFF見本市実行委員会

◎「第10回国際デザイン・フェスティバル」

2001年4月~10月

主催 (財)国際デザイン交流協会

◎「アンビエンテ・ジャパン(ハウスリビング・インテリア見本市)」、「インテリアライフスタイル(ホームデザイン国際見本市)」

2001年6月21日(水)~23日(金)

主催 メサゴ・メッセフランクフルト(株)

◎INTEL 2001「日本ブース」

2001年5月23日(水)~27日(日)

INTEL協会(Associazione INTEL)日本事務局

◎「第52回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2001」

2001年9月5日(水)~7日(金)

(株)ビジネスガイド社

第4号議案 会員入退会承認の件(31件)

正会員・入会(2件)

小林 弘明(関東)推薦人:今崎 務・南 等
橋爪 浩昭(関東)推薦人:山岸 柁史
道明 三千代

賛助会員・入会(1件)

ニッポ電機(株) 大阪営業所

担当者:市場開発部 次長 近藤 誠

紹介者:木谷 賢治

正会員・退会(15件)

澤崎 隆・秋野 稔・小田原 健・舟橋 千枝・まな

べみどり・近藤 多美・大岩 剛一・永峰 初穂・熊
木 光吉・山川 由子・高橋 正彦・原 好輝・佐久
間 務（関東）奈村 今日子・近沢 晴雄（関西）

賛助会員・退会（3件）

（株）木田工芸社（関東）（株）内田洋行（関東）

（株）住之江工芸（関西）

第5号議案 議事録署名人選任の件

議長は、秋山修治、山本棟子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

平成13年度第1回理事会報告

① 会議名：平成13年度第1回理事会

② 日 時：平成13年5月25日（金）13：30～15：00

③ 場 所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

④ 出 席：（理事長） 木村戦太郎

（副理事長） 阪井良種、山崎 晶

（理 事） 秋山修治、泉 修二、川上玲子、

吉良ヒロノブ、佐々木恵子、

関 里繪子、中川帛子、

長岡貞夫、山本棟子

（委任出席） 喜多俊之、山永耕平

（欠 席） 須長壮太郎

（監 事） 川上信二、中川千年

⑤ 議 事

峰尾事務局長より「理事総数15名中、本人出席12名、委任状出席2名、欠席1名で本理事会は成立した。」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

1 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部（長岡）

第11回デザイン職人四方山話の実行計画について打合せ（事業推進委員会）。関東・本部合同情報委員会でビデオ編集機器調査を行う。その他、今後セミナー等実施に関して本部委員会と関東事業支部間でスケジュールの調整の要があると報告。

◆中部事業支部（関）

3月及び4月の例会の実施、「モノ作りの探索」瀬戸市浅田製形、多治見市甲人陶器(株)を見学、水野実夫氏と語る（4月21日）。又13年度中部事業支部総会及び木point：くらしの体験館／東濃絵ショールーム、伊勢神宮備林／早川謙之助氏の工房等を見学実施（5月12～13日）。その他「中部会員展」の開催を検討中と報告。

◆関西事業支部（佐々木、山崎）

JID協賛会員、ECHO協賛企業の交流会を実施（3月27日）。中・四国会員交流会を3拠点の中心岡山で実施（3月31日）、今後関西事業支部会員で関西圏外在住の

会員との交流を深める。又関西デザイン系他団体とのコラボレーションや共同作業を行う。第2回ECHO賞を出題協賛企業、大光電機(株)で行うが関西事業支部以外の事業支部にも呼び掛け、又応募資格も拡大し実施することなど報告。

◆九州事業支部（山永理事委任出席のため文書にて）

九州事業支部総会を4月28日に開催、会員、地域の会員以外との交流。福岡デザインリーグ実行及び企画委員会に飯田支部長参加、6つの事業部会を計画、リーグ会員の参加募集を決定、新しい事業に向けて計画が進んでいる。その他IT化への対応を準備。又平成14年度九州インテリアデザイン展に対し今後計画を進めると報告。

◆総務・組織委員会（秋山）

会員規定、役員選挙規定の改訂案を作成、理事会に提出。JIDパンフレットの改訂版を検討、制作の準備を行う。新IDカードの作成準備。その他会員の福利厚生のためのベネフィットワン案内と募集を送付予定、又会員拡大の方策も検討と報告。

◆国際・交流委員会（川上）

JID meet the worldを5月11日エンポリオ アルマーニ丸の内店で行い、設計監理のF&F藤村盛造が案内役で、ゲストスピーカーにGiorgio Armani Asia Pacific社長JAKOB MEIER氏、進行小野由紀子、通訳高橋ナオコ、司会川上玲子で実施、約80名の参加があった。その他IFI参加アンケートで現在会員より6名の参加希望があり、今後再度幅広く参加を募ると報告。

◆情報委員会—インターネット（吉良）

JIDホームページの中に委員会サイドでホームページを作り操作していく。各委員会の編集ページを掲載し、又会員のニュース等も掲載する予定。その他発行物のデジタル保存や、トップページデザインをユース会員に有償委託案等を検討中と報告。

◆情報委員会—出版（吉良）

FROM-JIDについてテーマ1：地球環境とインテリア（シックハウスとは、エコ・デザインの定義、エコロジカルデザイン、サステイナブルデザイン）テーマ2：インテリアデザイナーとECO・DESIGN(デザイナーのエコに対する概念と対応)で進む予定と報告。

◆情報委員会—JIDニュース（吉良）

JIDニュース2001 / 6・7月号（215）を6月末発行の予定で準備すると報告。

◆教育・研究委員会A（山崎）

文部科学省による学習指導要領に定められた「総合的な学習の時間」を利用してインテリア教育（暮らしのデザイン）実施のための具体的展開を図る。現在関西を中心に活動しているが、今後全国的な協力を仰ぎ推進していきたい。集めた資料を整理、分析し11月頃にシンポジウムを行いたいと報告。

◆教育・研究委員会B（須長理事欠席）

今回は特に報告なしと事前報告あり。

◆教育・研究委員会C（山本）

富山県でのHumanizing Design21～JID会員によるユニバーサルデザイン展を終了した後、川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市）より同展の開催依頼があり、今後前回の反省と発展を踏まえつつ、岡山県（くらしの中のユニバーサルデザイン展—仮称）での実施に向け検討を進めると報告。

◆デザイン保護委員会（泉）

会員に対し著作権等の意識調査及びデザイン保護に関するアンケートを実施、約20%の回答があり、ご協力に感謝する。今後集計と分析を行うと報告。

◆事業委員会（阪井）

イベント企画としてコンペティション企画（学生、会員対象）や人材の活用（出張講演）等を検討今後具体化していくと報告。

◆会員プロモーション委員会（中川）

ワーク集＋名簿が出来上がり6月上旬に会員に発送する。その他OZONEでの都市基盤整備公園のコンペ展示等（2003年予定）と報告。

(2) 第33回通常総会ほか進行予定

事務局長より説明。

(3) 平成12年度会計監査報告

川上、中川両監事より報告。

(4) 平成12年度権利停止予定者

事務局長より5月25日現在の状況について報告。

(5) その他

・2001年第2回理事会開催予定

平成13年7月13日（金）13:30～16:30

議長は、報告事項について了承を求め、理事会はこれ了承した。

II 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長が下記4件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「イームズ・デザイン展」

東京都美術館2001年8月10日（金）～9月30日（日）

サントリーミュージアム天保山11月末～2002年1月

主催 東京都美術館、読売新聞社

◎「第26回大阪インターナショナル・ギフト・ショー秋2001」

2001年9月19日（水）～21日（金）

主催 (株)ビジネスガイド社

◎「第12回照明フォーラム 光の新世紀 青色LEDからのメッセージ」

2001年7月6日（金）

主催 社団法人照明学会東京支部

◎JPDA創立40周年記念「日欧デザイン会議」

2001年6月1日（金）

主催 社団法人日本パッケージデザイン協会

第2号議案 会員入退会承認の件

事務局長が下記退会について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・退会（8件）

篠原 博文・梶 暁美（関東）広瀬 文久（中部）田村 尚・井上 喬子（関西）佐藤 由紀・溝口 新・岩崎 悟（九州）

賛助会員・退会（2件）

岩出建設(株)（関西）仙台デザイン専門学校（関東）

第3号議案（社）商業施設技術団体連合会役員推薦の件

議長より立原俊郎会員を推薦したいと説明。議長は承認を諮り、異議なく承認された。

第4号議案 議事録署名人選任の件

議長は、阪井良種、山崎 晶両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

本部事務局 夏季休暇作業のお知らせ

8月13日（月）～16日（木）の間事務局業務を休業させていただきます。

「デザイン職人四方山話」
編集プロジェクトにご協力下さい！

関東事業支部 情報委員会委員長 鳥井 貴正

すでに会員の皆様にはお馴染みとなりました、人気企画「デザイン職人四方山話」も今回第11回をむかえ、ますます充実してまいりました。(おそらくこの号では第11回の報告記事が掲載されることと思いますが…)

さて、関東事業支部では、第1回からこの事業の記録として、ビデオ収録を続けています。これは、この記録を後々まで、多くのかたに見ていただき「インテリアデザインの歴史をリアルに伝える映像記録として残していこう」という意図のもとにおこなわれています。

そして、関東事業支部では映像記録が過去10回分集まったことを期に「正規のビデオライブラリーとしての編集作業」と「本としての出版を意識した、テープ起こしによる文書化」の作業を進めることにいたしました。当協会の貴重な財産として形に残したいと思えます。

そこで、この作業を実施に移すため、プロジェクトチームを強化したいと考えています。この作業をすすめるにあたっては、「ビデオ編集」「文書化」の他に「デジタル映像化(CD・DVD)」なども考えられます。また、一部の作業を外注化することも必要かと思われます。

すでに情報委員会でプロジェクトを発足いたしましたのが、現在情報や知識が不足しています。ビデオ編集・画像編集に詳しい方、テープ起こしや出版に詳しい方、あるいは、そのような専門技術を持つ業者をご存じの方の参加が望まれます。

ぜひ、このプロジェクトへの参加あるいは提案をお願いします。賛助会員の皆様、すでに他の委員会で活動中の皆様もふるってご参加下さい、お待ちしております。各委員長の皆様、ぜひメンバーの推薦をお願いいたします。

ご参加あるいはご提案いただける方は、本部事務局まで一報下さい。折り返しこちらからご連絡させていただきます。

本部事務局 電話：03-5322-6560

Eメール：honbu@jid.or.jp

今年度の事業計画について

関東事業支部・事業推進委員長 栗原 満直

今年度は二期日にあたり本部～支部共に各委員会の活発な活動が期待されます。

従って当委員会も昨年度の反省もふまえ他の委員会と重ならないように、早めの年間スケジュールを計画致します。基本的には二つのシリーズとフォーラム&セミナーを柱とします。

一つ目(デザイン職人四方山話)は今回で11回目を迎えます。ビデオ～写真等の記録はこれからのJIDの財産と確信いたします。今までの参加者を分析しますと残念ながらJIDの会員の参加が少ない事です。これは他の企画においても同じです。自らをいましめ参加意識の何を計って欲しいと思います。高ぶらず人を尊敬でき、思いやりや多くの人と協調できる人の集まりであって欲しいものです。

二つ目(建築と暮らし再発見)は古いもの・新しいものの価値観を改めて再発見しようと言う企画です。第1回は昨年川崎市民家園でした。会員(正/賛)・一般・学生等、夏日の強い光をうけ誰となく先輩やボランティアの人の説明にきき入り夜は岩倉会員のショップで懇親会、横浜港の花火を満喫しました。第2回は暮らしの生活民具を見学し屋外パーティを企画しています。日頃参加出来なかった人も是非参加して大交流会にしたいと考えています。第3回は川越を予定しています。フォーラム～セミナーは11月を予定しています。出ればミニ展を同時開催したいと考えています。

今年度の事業予定

6月13日(水) PM2:30～PM5:30

第11回デザイン職人四方山話

話し手 柳 宗理氏 銀座INAXに於いて

9月8日(土) AM10:00～PM3:00

第2回建築と暮らし再発見シリーズ

横浜東山田郷土資料館に於いて

10月19日(金) 時間未定

第3回建築と暮らし再発見シリーズ

川越市

11月16日(金) 時間未定

フォーラム～セミナー

田島ショールーム予定

14年3月予定

第12回デザイン職人四方山話

話し手未定

JID関東ユース第1回の総会を終えて

JID関東ユース運営スタッフ 藤崎 緑

2000年5月に発足して、1年が経ち第1回関東ユースの総会を向かえ、無事閉会しました。

11年より準備が始まり、12年5月の発足会の鈴木重千代さんの講演会に始まり、今日まで多くのJID会員、賛助会員の見学会、セミナー（ダニエル、小泉産業）などのご支援、またJID事業、「日本民家園」の見学会、国際家具見本市への参加など、主な活動に加え、会員同士の情報交換の場を設け有意義な話し合いが出来ました。

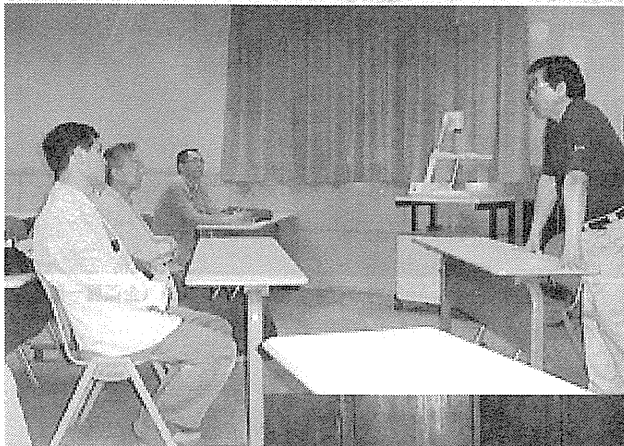
そして念願のJID関東ユースの会のロゴが出来、JID理事会で承認を得、総会で会員にお知らせしました。

13年度は、スタッフの多くが、学生から社会人になり新たなメンバー構成でスタートしました。

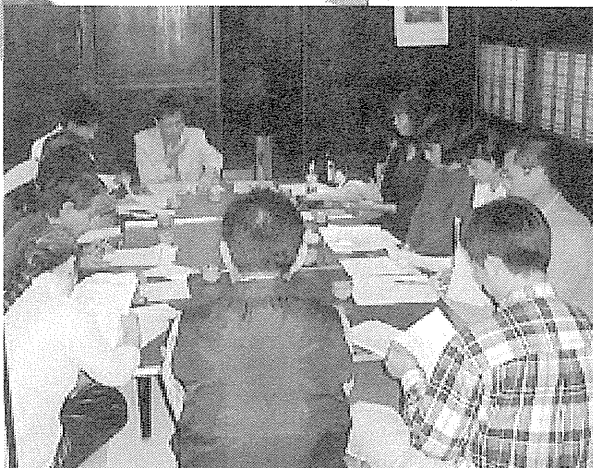
総会で、今年度の活動計画予定として、8月にJID会員の井上昇さんの「椅子塾」で「椅子のセミナー」を開催の予定。また鈴木重千代さんとのディスカッションやミニ冊子の制作なども企画しております。

昨年度の参加した活動などから学んだことを活かしながら、新たなチャレンジをしていきたいと考えております。ユース会員の皆さん企画活動に参加しませんか。くわしくは事務局にご連絡ください。

岐阜県恵那市「木 Point」にて



木曽の民宿「ほていや」での総会



JID
NEWS

中部

中部事業支部総会報告 木曽での総会

昨年に続き、岐阜県での総会開催となりました。昨年岐阜市の長良川河畔で開催し、今年は岐阜県は東濃地方の恵那市、木曽が見学と総会の場所となりました。見学場所の「木 Point」では、協同組合東濃地域木材流通センター設立の経緯、現状の事業活動など説明を受けた後、ショールームである「木 Point」の見学、市売りを行う「木材流通センター」では、東濃檜の柱など多くの木材を目にすることができ、貴重な経験となりました。

次に総会の会場となりました木曽の民宿「ほていや」では、総会が順調に終了し懇親会へと移り、山菜・川魚のほか、突きたてのよもぎ餅など手作りのもてなしで、心に残る総会・懇親会となりました。

翌日は付知町にある伊勢神宮備林散策と早川兼之助氏の工房訪問となりました。

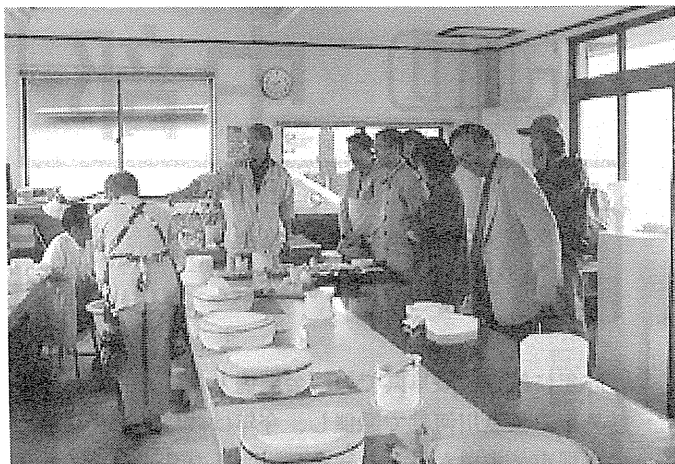
中部事業支部
総務委員会 松波一夫 記

4 月月例会：陶器工房見学会

4月21日（土）JID中部事業支部の月例会は陶磁デザイン工房・Kの神谷幸男氏の紹介により、陶器の街瀬戸、多治見市の陶磁器工房を見学しました。安藤支部長、水野事務局長以下中部会員11名参加の楽しい会になりました。案内資料に13：00名鉄新瀬戸駅前集合とあったのを、数名の会員と尾張瀬戸駅で待合せをしたエピソードはありましたが、小雨まじりの道を3台の自家用車に

分乗、初めは瀬戸の浅田製型にて石膏のスプーン、コーヒーポット、急須、植物の種入卵を型に注ぎ石膏の吸水時間により陶器の厚みが一定の厚さに出来るのを参加者各位驚嘆の声を発した。

次に多治見の甲人陶器水野実夫さんの工場を訪問、4代続く名門の陶器工房とのこと、赤土の小名田木節粘土と言う地元の土を用いて、酒德利、沖縄の泡盛の德利、梅入壺などある程度の量産商品から、水野氏の手作りデザイン作品等いろいろな作品の説明を受ける。夕食時はオリベロードの陶器ショーツプを見学、古



瀬戸市 浅田製型の工房にて

い建造物をリフレッシュしたそばの店“いざわ”で祝杯をあげる。

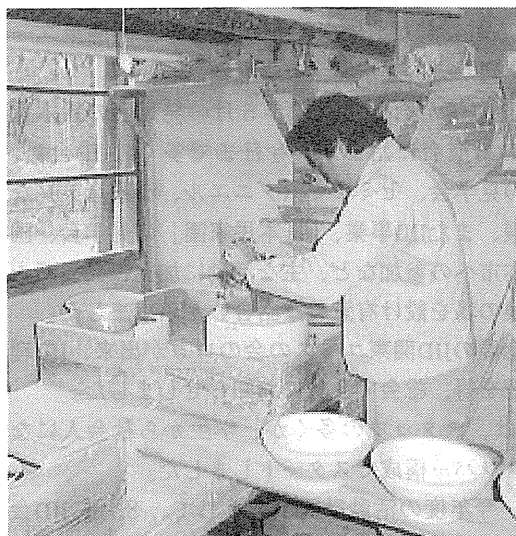
帰りがけは水野、神谷両氏行き付けのスナックカフェで軽く一杯、ほろ酔い気分でJR多治見駅についた時刻は21時中ばを過ぎていただろうか記憶はさだかでない。

中部会員 宇賀敏夫 記

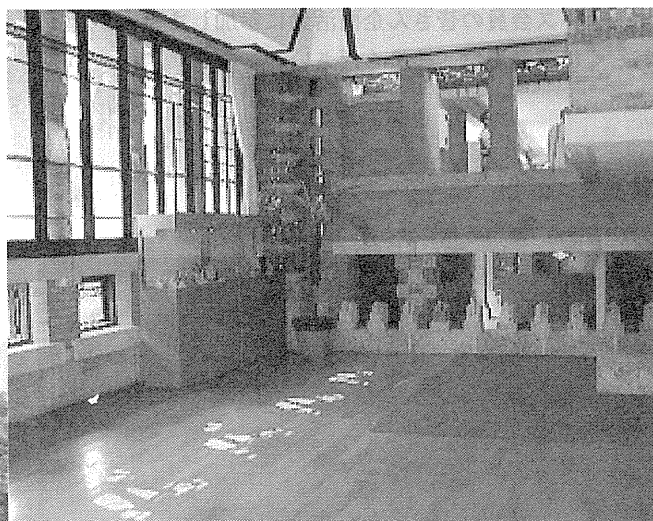
事業支部企画検討案

内要：博物館明治村 旧帝国ホテルにおける企画展……
詳細企画検討中

時期：平成14年3月末～4月上旬（2週間程）



多治見市 甲人陶器の工房にて



中2階婦人ラウンジ（企画展一部会場）



旧帝国ホテル正面

関西から全国会員の皆さんへ
—元気のJIDを皆んなで創ろう—

関西事業支部支部長 八十常充

事業部会長 木谷賢治

● 第二回ECHO賞デザインコンペがスタートします！

日本経済の沈滞ムードが人々を生活防衛型に追い込みデフレ型経済が持て囃されているようでは、インテリア業界にあかりは見えてきません。こんな現在の社会背景がJIDの活動を沈滞化し、JIDに魅力をなくし会員の減少という悪循環を招いています。

プロが集まるJIDは、個々の会員が持っている貴重な能力（アイデア、知恵、ノウハウetc）をもっと効果的に集めて、企業に提供が出来る場があってもよいのではないのでしょうか。企業側もデザインのプロ集団を活用して、一度に多くのアイデアを集める事が出来ればメリットがあると思います。

こんな両方の意見がまとまり、昨年第一回ECHO賞デザインコンペが実施されました。このデザインコンペの特徴は商品化を行ってカタログに載せて販売を前提としています。又、売上によりロイヤリティが入ります。販売することによって経済効果を生み、優れたデザインの商品を世に出す事で社会貢献を行います。

第二回ECHO賞実施にあたり、今回は4支部（関東、中部、関西、九州）での応募説明を行います。会員各位の積極的な参加を期待致しております。

第二回ECHO賞応募要項(抜粋)

テーマ「商業施設における照明器具のシリーズ展開」

応募作品規定：単体の提案ではなく、シーリング、ブラケットなどのシリーズ提案。郊外型ショッピングセンターの物販、飲食テナントで機能性・ファッション性に富み好感の持てるもの。一機種2～3万円の普及品で素材の制限はありません。

主催：JID関西事業支部 ECHO賞実行委員会

出題協賛企業：大光電機株式会社

問合せ先：JID関西事業支部 事務局 担当吉田

Tel/Fax 06-6615-5105

尚、詳しくは応募要項をご覧ください。

● 第一回JID kansai デザイントーク

テーマ「21世紀の照明環境を探るJIDからの提言」

事業部会では第二回ECHO賞デザインコンペに加え、



受託事業の一環として新しくデザイントーク（レクチャーまたはセミナー形式）を企画しました。

新しい世紀を迎えて、デザインの創世をと、多くのデザイン界で叫ばれています。デザインは生活の中で欠かす事の出来ない大切な要素です。とりわけ空間系のデザインの中では、見た目の美しさやセンスといった普遍的な事はもとより、省エネルギーやローコストオペレーションなどデザインだけでは解決できない要素も多く含まれています。そこで、照明器具専門メーカーの大光電機(株)とJID関西とが事業協力し、下記のデザイントークを企画致しました。

①JID会員と大光電機(株)商品開発部のインハウスデザイナーとの意見交換により、次世代の照明器具開発のヒントや照明環境などの近未来的動向を探り交流と情報交換を誇ります。

②JID会員に、照明も含んだ空間論、インテリア論を論じていただき、オーディエンスを巻き込んだ討論会を開催します。参加対象者はJID会員以外からも、JCD、DDAなどの空間系デザイナー、JIAなどの建築家にも参加していただきます。また特に21世紀を担う若人を育成する意味からも、若い人達の勉強、交流の場を企画致しました。

関西から創造提案型の事業を積極的に展開したいと考えています。全国会員の皆様のご理解と積極的なご参加をお待ち致しておりますと共にインテリア業界にあかりを！

13年度九州事業支部総会

九州事業支部事務局 松本 豊

本来、支部規約では4月上旬に総会を開催する事になっていますが、支部会計をまとめて会計監査、そして総会資料作成のめどが立って支部会員の皆様への案内をしているとどうしても4月の下旬になってしまいました。しかも4月は公的機関に所属する会員の方や、学校関係の会員の方々は一番いそがしい時期でもあります。しかし、総会での決議が行われない事にはその年度はスタートしないのです。

第一号議案の12年度事業報告、第二号議案の12年度会計報告は、一年間の慣れない事務局運営を反省しながらの報告となりました。事業報告件数の多さに、この一年間大変だったのは私一人ではなかったのだと、支部役員の皆様に感謝しております。

第三号議案の13年度事業計画、例会の開催、インターネットHP案の制作、インターネット研修会、14年度デザイン展準備会議、fukuokaデザインリーグへの参加は全て承認されました。特にインターネット研修は、九州全域に会員が点在する支部の事情からすると、早く実現したいものです。

第四号議案13年度予算案は、前年からするとかなりの縮小予算となりましたが、昨年度が展示会開催の都市であったために致し方ない事かと思いますが、計画する側としてはさみしい思いがあります。

第五号議案その他はまず例会の運営方法について協議し、支部会員以外特に学生の参加を求める事、各地域との交流を深めるために、例会を地域のイベント等への参加を含めて行う事で意見が一致しました。また、支部会員の現状報告で13年度で退会者が相次ぎ、特に5人の区委員長中お二人が退会を希望されており、後任の地区

委員長の出が必要になりました。他の支部でも状況は同じでしょうが、会員が一地域に集中しない九州では今後の支部運営の難しさを感じます。

今年度の総会参加者は9名といつもより少なかったようです。もちろん支部会員の減少もありますが、総会と懇親会だけの開催とした私の計画にも問題があったような気がします。多少時期がずれても他のイベントと併せて開催が必要であったと反省しております。

「北九州例会と交流」

国際・交流委員長 兼 北九州地区委員長
北村 新比古

九州事業支部例会は現在、九州の各地において輪番で行われている。北九州ではこれまで、定例会議と同時に地域を代表する建築やインテリアなど見学も同時に行ってきた。この3月10日の例会は、趣向を変えて「江戸に学ぶ町づくり」と題し近世江戸の町と生活、さらに江戸文化など私が好きで集めた大江戸の話を聞いていただき、続いて北九州の近世文化を代表する黄檗（おうぼく）の世界を知る見学など、個人趣味の強いプログラムを実行させていただいた。過去私は、建築やインテリアの移り変わりなどを切り取った箱庭のように鑑賞してきたが、その推移の必然性や事情は見えにくいまだだった。それは恐らくその時代の様式として定着した美意識や、心を揺さぶる感動は、それぞれの時代背景というべき歴史が見えると、さらに大きな理解への裏付けとなることを見過ごして来たからだろう。それは例えば中国の元と明の焼物が連続した時代にも関わらず、それぞれ全く異質な作風と美しさを持ち、それには感動的な時代背景が大きく関わっていることを知ることで、作風の成り立ちが理解できるようなのかもしれない。そういうことで時代背景をも含み、出来るだけビジュアルな資料を集めたOHPを見てもらい、不思議な国の世界を楽しむような気楽な会を開催した（この例会終了後、会員の作品や最近気になったビジュアル資料などを持ち寄り、スライドやOHP、パソコンなど見ながらワイワイやる例会も良いなあ…と感じた）。

大江戸の町づくりをひとつ見ても、そもそも江戸が出来るまでのきっかけから具体的計画、その実行と結果によって生まれた大江戸の実態、そして江戸の政治的・経済的・文化的意趣の完成度とその副産物は？ など興味は尽きず、とても奥深い。にもかかわらず、現在からわずか百数十年前までの時代が、まるで外国か映画の中に出てくる話のように日常の生活からかけ離れて感じられるのは、私だけなのだろうか。歌舞伎をテレビの解説付きで見ないと良く意味が理解できない私の近世に対する距離は、とてつも無く遠い。戦後の昭和20年代後半、私がまだ子供だった頃、赤線・青線などパンパン嬢の立

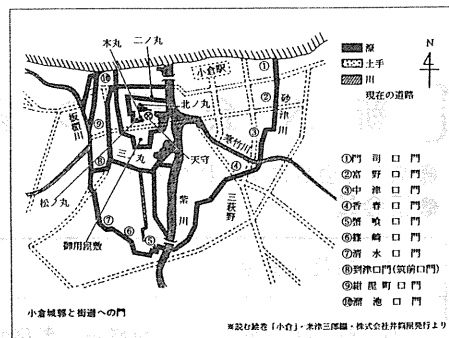


松下電工ナイスショールーム福岡研修室での総会風景



近世の面影が残る大正年間の広寿山・福聚寺（広寿山・福聚寺の「しおり」より）

小倉城郭と街道への門（読む絵巻「小倉」米津三郎編・株式会社井筒屋発行より）



つ裏路地へ米兵の手を引っぱって行くと、チョコレートを買えた。日本古来の芸能文化はいうまでも無く、日本語も日本の生活も知らない彼ら外国人と私を比較しても、近世日本への理解という意味では、その差はあまり無かったと思える。恐らく今から20年前までは、日本に来る外国人よりも私のほうが日本の歴史や伝統に対する興味も理解も無かったと言えるであろう。江戸の話はJID関東事業支部の皆さんのほうが詳しいと思うのでこの紙上では省略。

さて、この日の例会では、まず北九州市立歴史博物館で近世のコーナーを見学、小倉城と城下町の様子などを見る。鎖国時代、長崎出島に入った海外物品・情報などが、江戸や大阪に向かう道筋として繁華だった長崎街道は、九州において特別重要なものであった。その街道の終着点、つまり小倉は九州出入口の宿場というだけでなく国際的な情報と交流の役目を担う町としての実態もあった。それは小倉から三都などに向い陸路、海路のいずれを利用するにしても、小倉の眼前に広がる関門海峡は、わずかの風雨でも舟が出なかった。外国人や貿易商人、外国の知識や情報、製品を求め行き来する人々が、ここ小倉の町に足止めされる日が、長ければ長いほど小倉の町は賑わい、ますます国際情報と交流都市としての役割を強くしていったのである。厳しい禁教令の時代、従来からある日本の仏教においても、新解釈や新教義が禁止されていた。そういった中で、唯一新しい風として受入を許された隠元（インゲン＝インゲン豆を伝えたことで知られる中国の禅僧）の臨済宗・黄檗派は宗教組を超えてあらゆる生活・文化に斬新で強い影響を及ぼした。この新しい宗派は、禁教と云う掟が存在する時代において、実に30数年の間に800寺以上を誕生させた。将軍家あるいは朝廷へ行き来する黄檗禅僧が、この関門海峡で足止めされたことに起因するのか、やがて小倉藩主の為に菩提寺「広寿山・福聚寺」を閉山することになる。（日本の総本山は宇治・万福寺）さて我々が博物館の次に見学したのがこの福聚寺。離れを借用し、「江戸のはなし」と例会を開く。最後にここの弟寺へ移動し、黄檗派（明治時代以降は黄檗宗と呼ばれる）の精進料理である「黄檗普茶」をいただいた。（平成10年からは福聚寺和尚の弟さんが住職である小倉南区の聖応寺・黄梅庵で普茶料理を出している）近世の江戸の町においても黄檗派の寺にて、珍しい外国の高級精進料理として「ふちゃ」を賞味する図が残っている。私はこの広寿山・福聚寺と聖応

寺・黄梅庵の「黄檗普茶」しか知らないが、生ものを使わないにも拘らず、これだけバリエーションが豊富で美味しく美しいものが出来ることにそのつど感動する。かつて広寿山・福聚寺で禅寺としての枯淡・風雅な室礼、趣の中にあって戴いた普茶料理は男の喜ぶ食の空間であったが、現在の聖応寺内にある新しい建物・黄梅庵での黄檗普茶は、雅な上品さが香るような女性好みの食空間を感じてとても心地よい。他の普茶を知らないが、小倉の黄檗普茶はお勧めである。恐らくこの日の参加者は「薫酒山門に入るを許さず」と書かれた寺で、俗である身と、こだわりから離れることを薦める禅に感謝し、至福の宴を満喫することが出来たのではなかろうか。現在、期せずして私はJID九州事業支部で国際・交流委員長を拝命し、黄檗文化・国際情報交流都市で知られる小倉の地で、その内容を伝える例会が出来たことは、うれしかった。

また、4月26日、中村圭介名誉会員が福岡へ来られるとのことで、氏が最近著された「文明開化と明治の住まい・暮らしとインテリアの近代史（上）」の話など聞かせて頂こうと有志を集い久々に他支部会員と交流することが出来た（有難いことに当日、氏より同著書を九州事業支部へ寄贈頂く）。話はこの本の事から始まり、中村氏の全国百貨店労働組合書記長や三越青年時代、さらに時代は遡り明治維新からの話（途中で中村先生は幕末生まれなのか？ という話も…）、さらにこの本に載っていない面白い話が続出。2時間笑いが耐えず、笑いすぎて涙が止まらず、頬やあごが痛くなる者も出る。九州のうまい酒が、益々うまくなり全員幸せな時間を持つことが出来た。交流は、やはり最高です（私の報告には、いつもお酒の話が付いていて申し訳ありません。本人は、いたって真面目な報告のつもりです）。以上

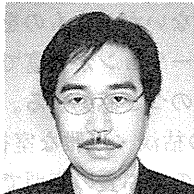


中村名誉会員を囲んで

【新入会員の紹介】

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住所及び電話
こばやし ひろ あき 小林 弘 明 会員番号 1192 	〈勤務先・事務所〉 〈自 宅〉 〈推 薦 者〉	(株)オカムラ物流 スペースクリエイツ営業部 東京都千代田区永田町2-13-2 6F 〒100-0014 TEL 03-3593-6751 FAX 03-3593-6841 神奈川県藤沢市片瀬海岸2-7-21 湘南ハイツ203 〒251-0035 TEL 0466-50-1837 今崎 務・南 等
はしづめ ひろ あき 橋 爪 浩 昭 会員番号 1193 	〈勤務先・事務所〉 〈自 宅〉 〈推 薦 者〉	株式会社 織 絵 東京都港区北青山2-19-16 AAビル1F 〒107-0061 TEL 03-5772-5801 FAX 03-5772-5803 東京都新宿区矢来町96-201 〒162-0805 TEL・FAX 03-3268-6958 山岸 枢史・道明 三千代

2001/6~7

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (2001年通巻215号) 2001年7月2日発行

発行所/社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人/木村戦太郎

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集/本部情報委員会 制作/be-one